

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 1 月 7 日 11:21AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～44,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.000

新年明けましておめでとうございます。令和 7 年(昭和 100 年でもあります!)
が皆さまにとり実り多い年になりますようお願い申し上げます。本年も宜しく
お願い申し上げます。(宮田)

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。
相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされま
す。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)は 31,156 円(8/5 安値)を以て終わり、第(5)波の上昇が進行中かもしれません(いまだ決め手には乏しいですが)。

2025 年大発表会(1/6)の日経平均は大幅に続落しましたが、今週末には昨年 7 月 11 日高値から 6 カ月信用期日を迎えます。3 連休明けの 1 月 14 日からは戻り売り圧力の低下が期待できそうです。

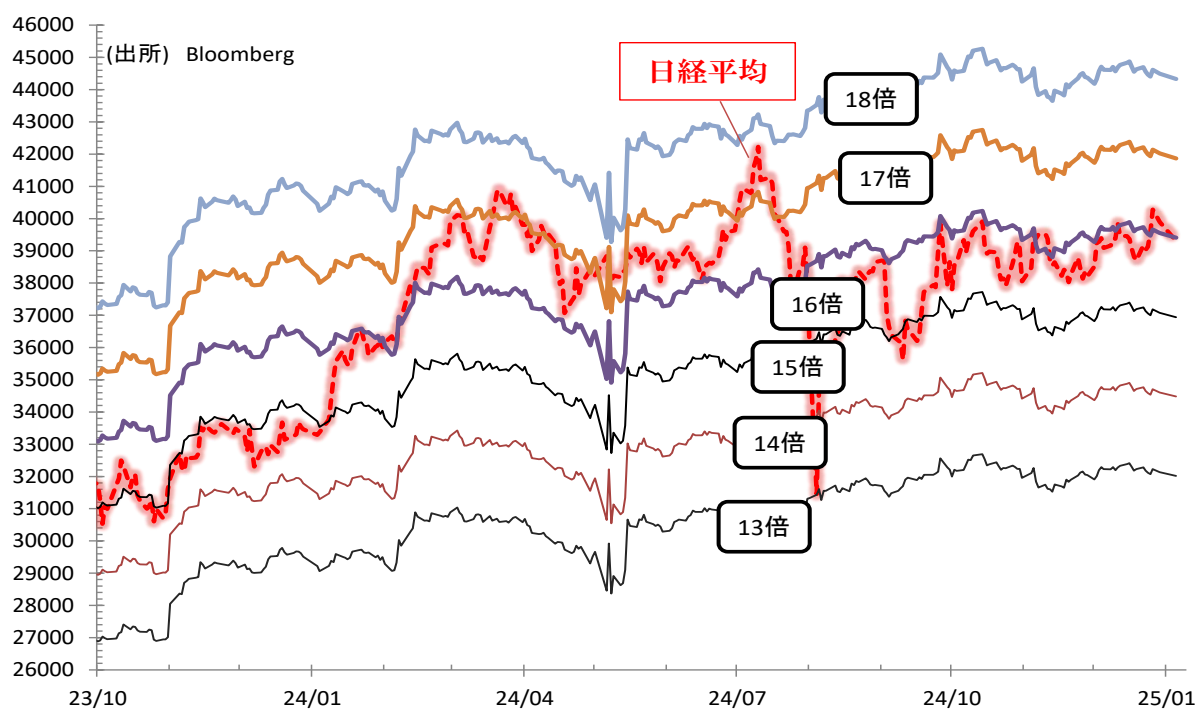
なお 9 月からこれまでのチョッピー(choppy)な波形は、第(5)波が「エンディング・ダイアゴナル」パターンを形成しつつあることを示唆しています。

早ければ 2 月～3 月にも 42,426 円を上抜き、最高値を更新するでしょう。第(5)波ターゲットは引き続き [4 万 3000 円-4 万 5000 円]です。

第(5)波上昇を以て、5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るとみています。



[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ

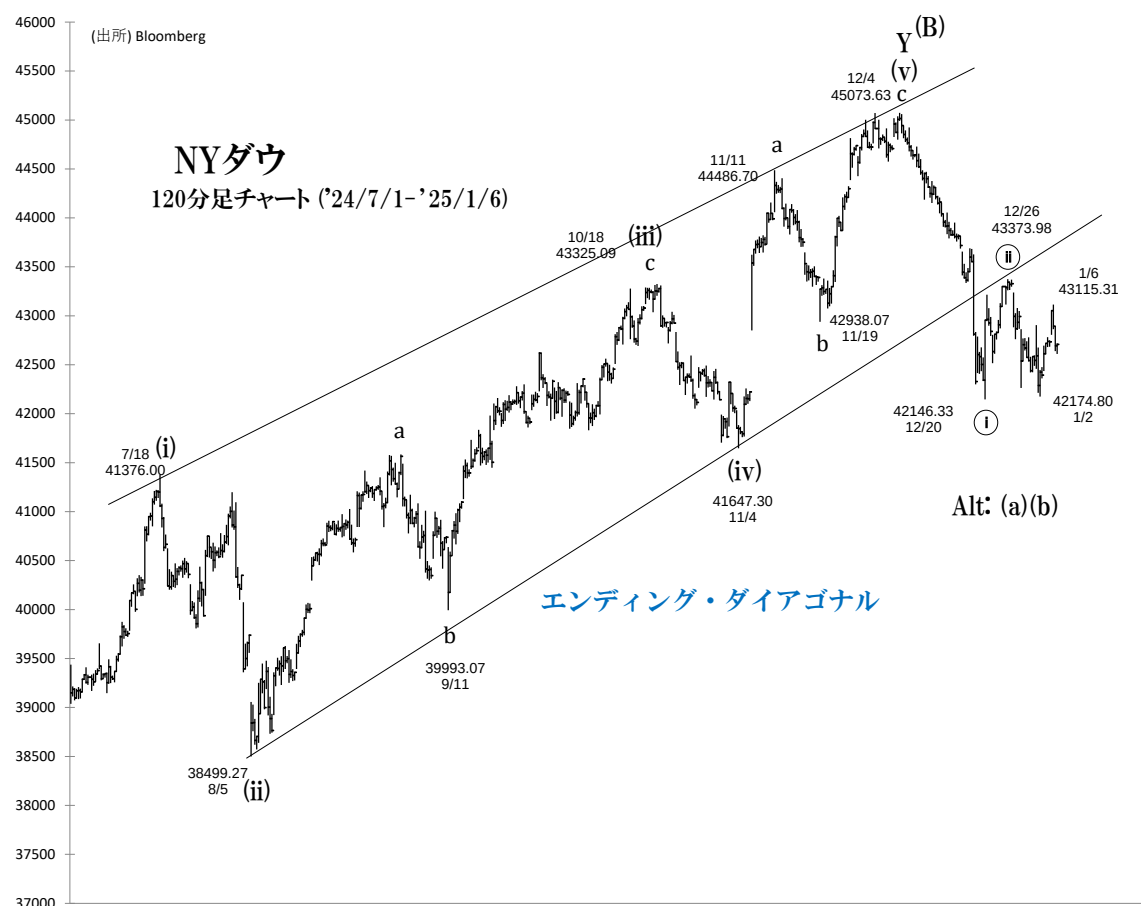


【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波による下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

なお当面の下値ターゲットとして有力な水準として 24 年 4 月安値(37,611ドル)—これは[エンディング・ダイアゴナル]の始点です—を挙げることができます。



【時間足 エリオット波動分析】

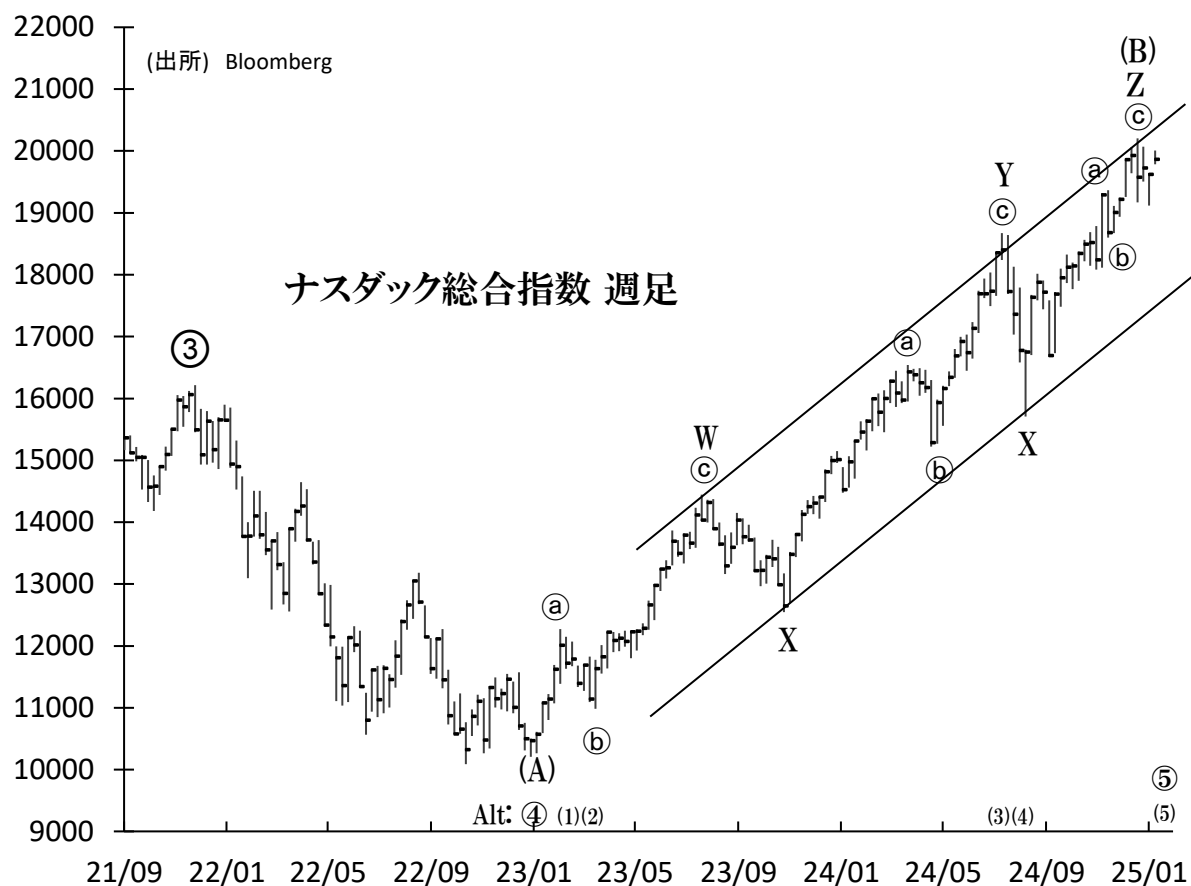
24 年 12 月 4 日高値・45,073ドルを起点とする最初の下げ波動(マル i 波)は 42,146ドル(12/20)で終わりました。マル i 波の下落スケールは「下げ幅 2927ドル、下げ率 6.49%」でした。

マル ii 波によるリバウンドは、43,373ドル(12/26)で終わったか、終わりつつあります。マル ii 波によるリバウンドが「フラット」により進行中とすれば、42,174ドル(1/2 安値)からの上昇はマル ii 波中(c)波に当たります。この場合は目先のにも 43,373ドルを打診しそうですが、それを以てマル ii 波は完成します。

いずれにしてもマル ii 波は近いうちに終わり、マル iii 波による下落局面が始まるでしょう。

来るマル iii 波は、上記マル i 波の下落を上回る下落スケールが見込まれます。**今後の下落リスクには要注意です。**

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

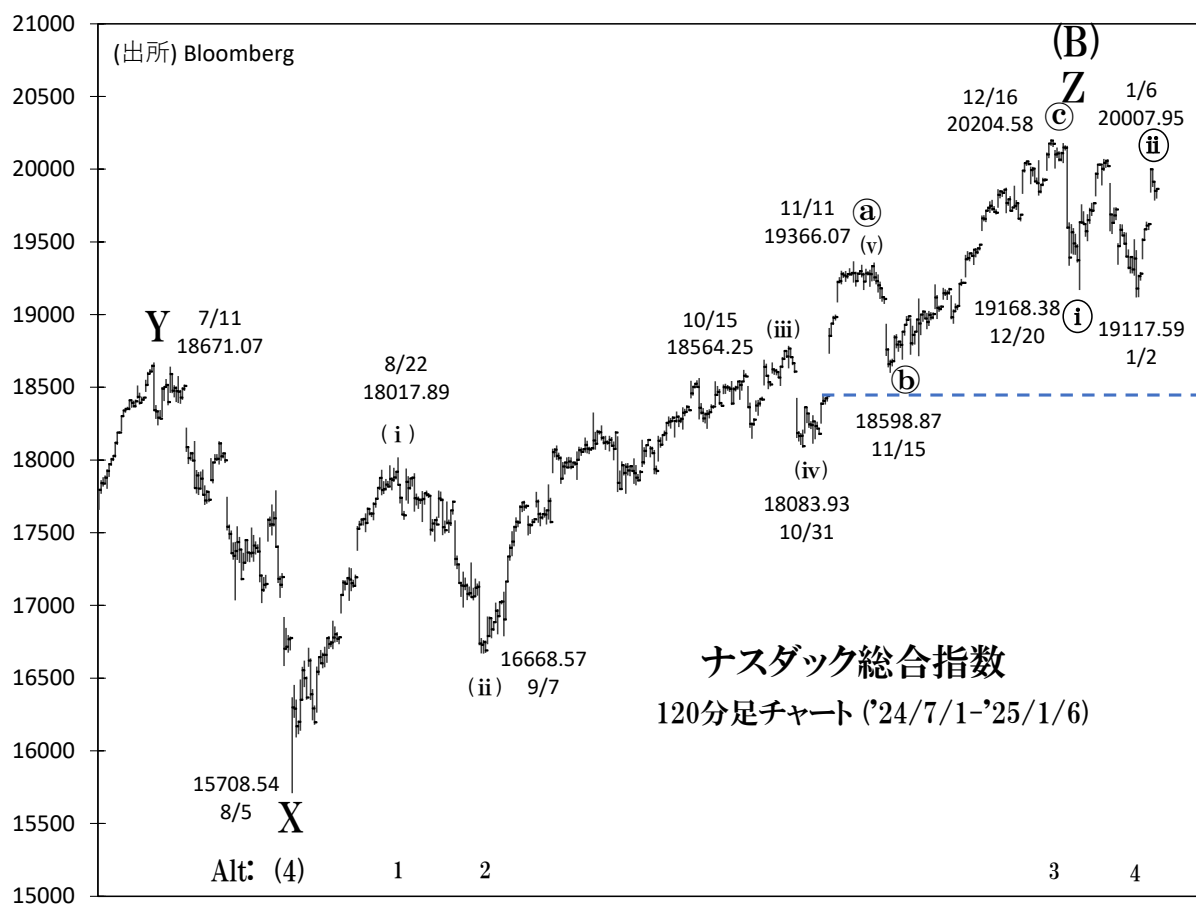
プリファード(優先)カウント

20,204(12/16 高値)を以て、④-(B)波は完成し、(C)波による下落入りの可能性を指摘できます。

(C)波は(A)波(21 年 11 月～22 年 10 月、高値から 37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。この見方だとナスダックは、もう一度高値更新の可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

20,204(12/16 高値)以来の最初の下げ波動(マル i 波)は 19,168 で終わり、そこからはマル ii 波によるリバウンドとみられます。このマル ii 波は「フラット」を形成しており、それは 20,007(1/6 高値)で終わったか、終わりつつあるようです。

この見方が正しければ、**まもなくナスダックはマル iii 波による下げ局面に入り、遠からず 19,117(1/2 安値)を明確に下抜くでしょう。**

来るマル iii 波の下落スケールは、マル i 波(下げ幅 1036 ポイント、下げ率は 5.13%)を優に超えるとみられ、**下振れリスクは大きい、**といえます。**当面の下値ターゲットは、11 月 6 日のギャップを埋める水準 [18,449]です。**

なお上記見通しは 20,204 を上回らないことが前提であり、上抜いた場合は別の波動カウントが必要です。

【オルタナティブ・カウント】

24 年 8 月安値(15,708)以来の上昇は第(5)波です。この上昇トレンドは、五波動構成(1-2-3-4-5)であり、19,117(1/2 安値)から第 5 波の上昇が進行中です。この第 5 波によってナスダックは、[20,400-21,300]へ上昇する可能性があります。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

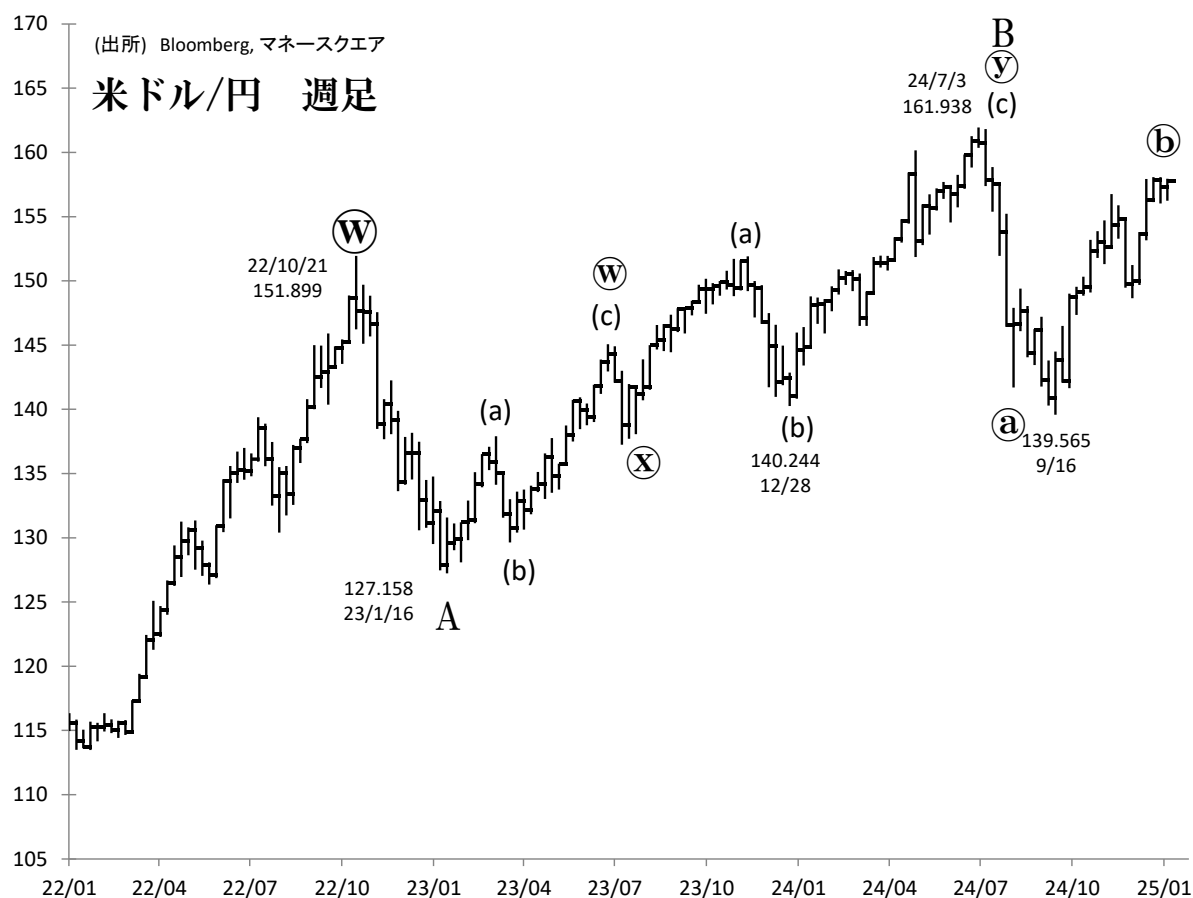
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

25年1月、①の水準は135.655円に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。25年1月を通じ、②の水準は116.030円となっています。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。この C 波は、三波構成(①-②-③)で進展していく、と思われます。

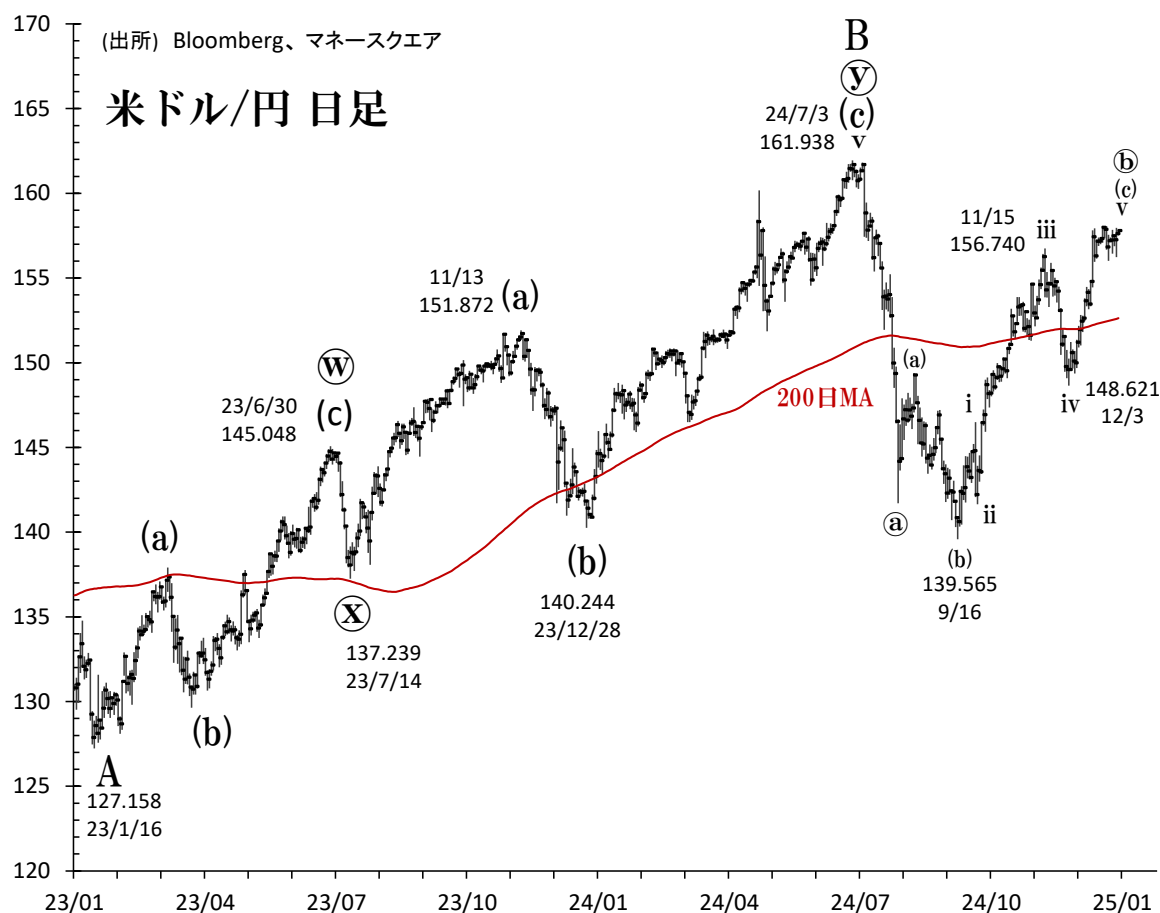
足元、ドル/円は 158 円近辺で高止まりとなっています。160 円も視野に入る状況ですが、この②波によりドル/円は、7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」を付けるでしょう。

近々②波が終了するとともに、③波のドル安・円高が始まると予想します。

24 年 7 月高値を上抜いたときの考え方

24 年 7 月高値(161.938 円)を上抜くケースでは、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月)が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くとイレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)より、⑥波「エキスパンデイト・フラット」が展開しています。

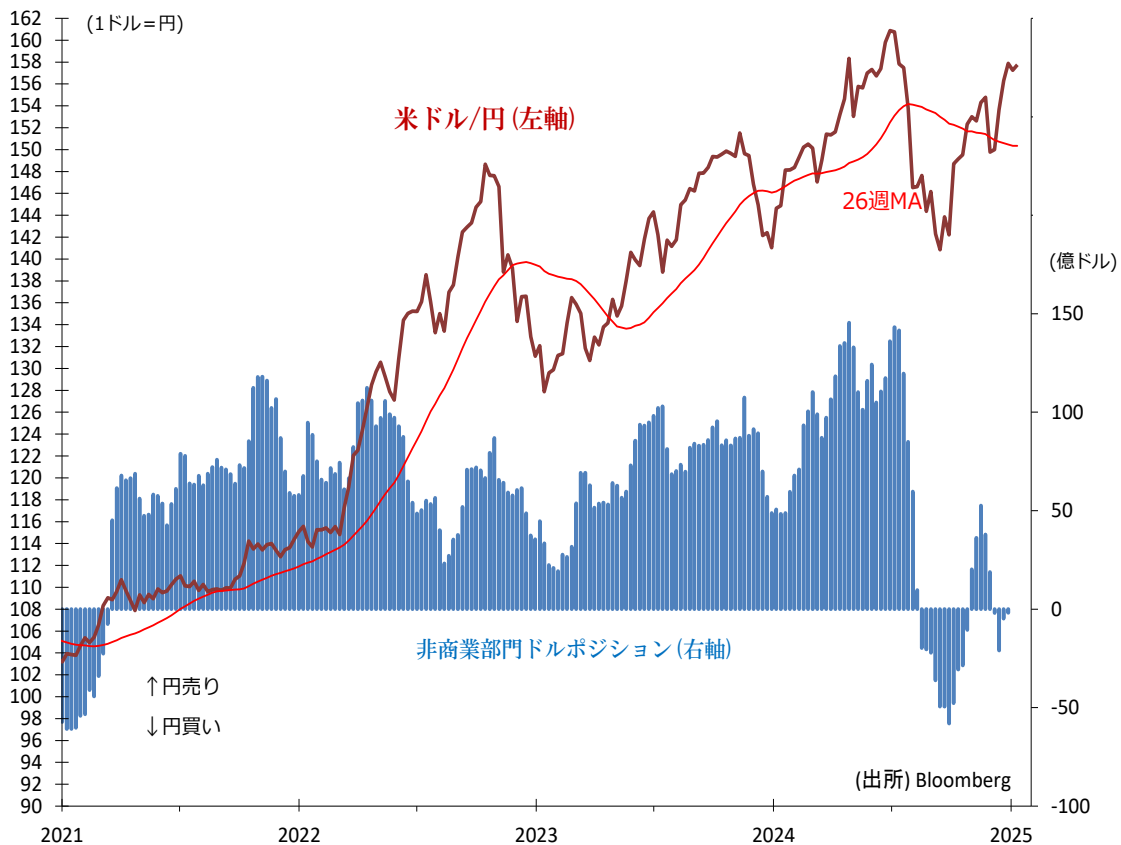
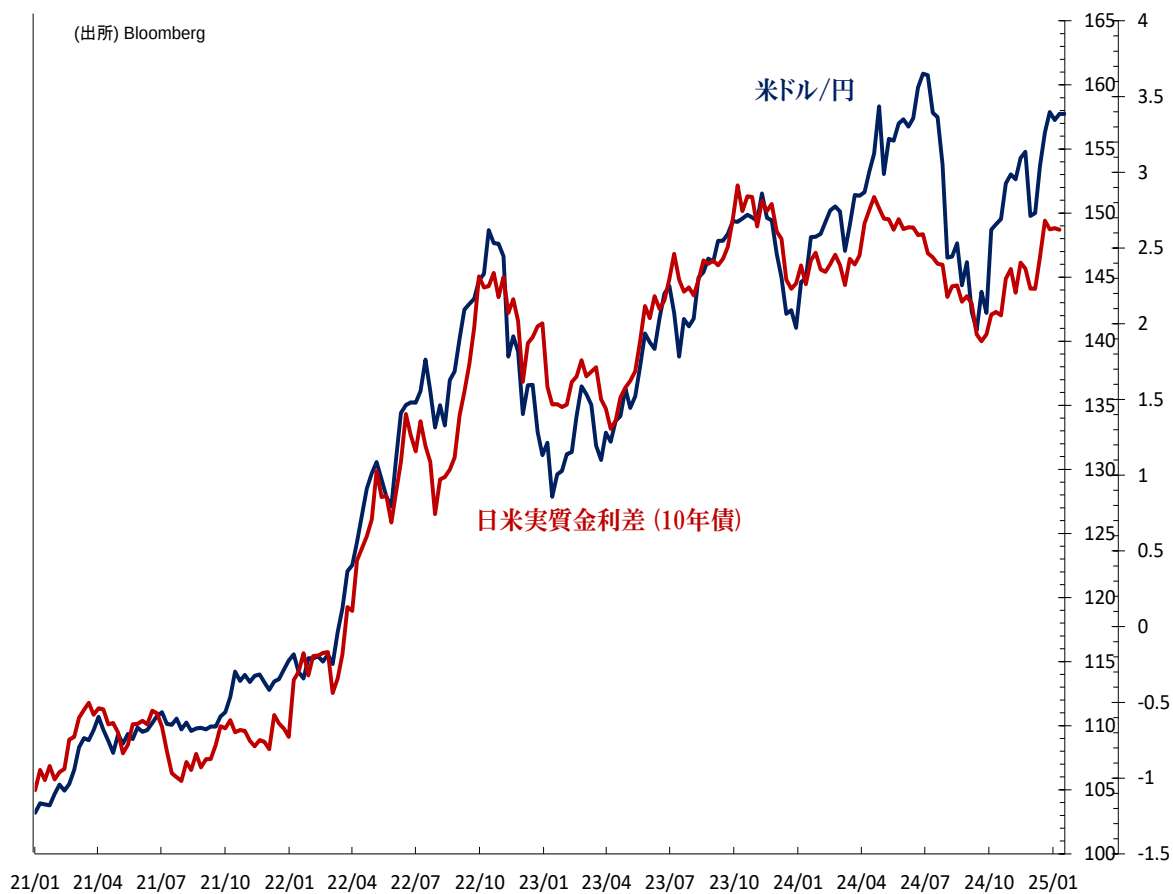
139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは目先のにも終了し、ドル安円高基調が再開する見込みです。25 年には 139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

金利差からのドル/円推計値

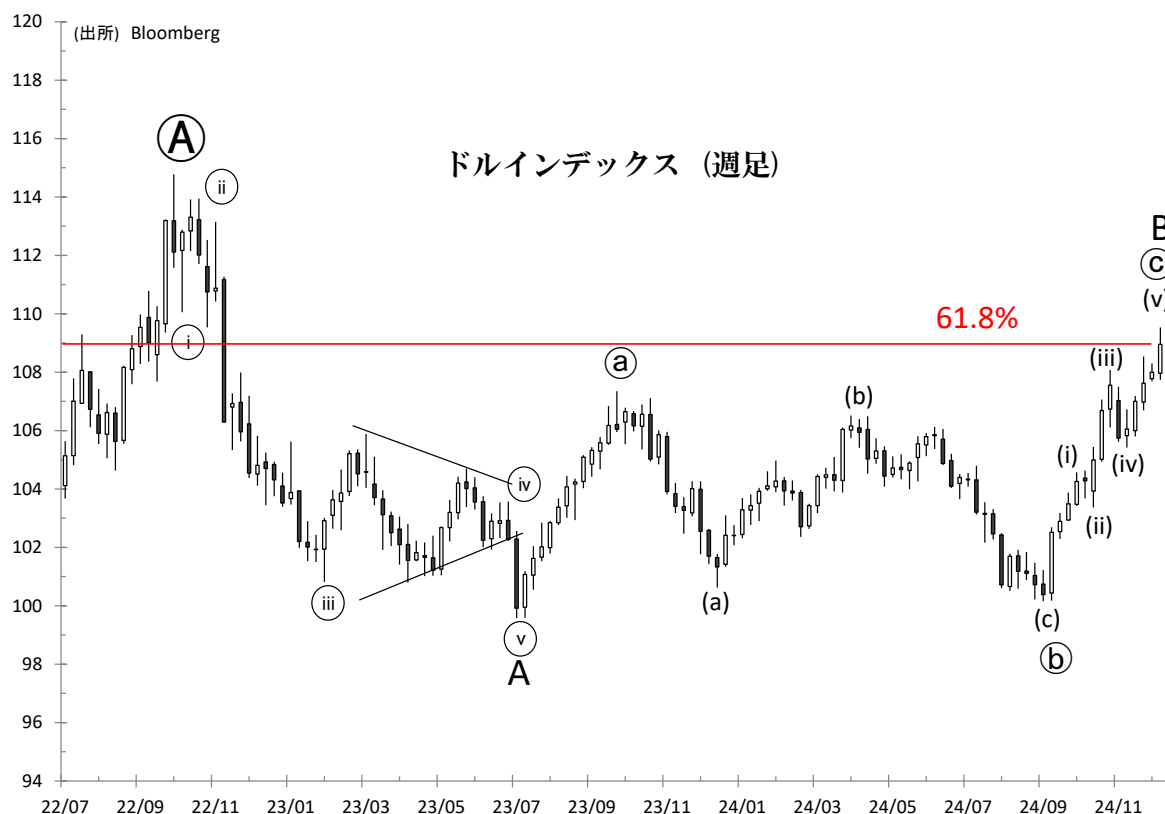
日米実質金利差からのドル/円推計値は[150.872 円]です。

投機筋の円買い持ちが縮小(12 月 24 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ちポジションが、前週(4.76 億ドル)から 1.83 億ドルへ縮小しました。円買い持ち高の縮小は 3 週連続です。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

25 年はドル安の年になる可能性が高いでしょう。

1 月 2 日にドル指数は一時 2 年 2 カ月ぶり水準(109.533)へ上昇しましたが、翌日からは一転、ドル安となっています。100.157(9/27 安値)からの B 波-ⓐ波によるドル高は終了し、C 波のドル安トレンドに入っ
たかもしれません。この見方は、107.587(12/20 安値)を下抜くことで高められます(1 月 6 日には一時
107.750 まで下げました)。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率
は、C 波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
